

日本アンダーライティング協会

八束代表理事に聞く

21年度は3部会の活動に注力

日本アンダーライティング協会では本年度から「テキスト部会」「インシュアテック部会」「事例研究部会」の三つの部会の活動を本格化している。20年度はコロナ禍を受け、これまで集合形式で行っていた教育講習会をウェブ講習会に切り替えて開催する等、主に活動のオンライン化の推進に取り組んできたが、環境が整ってきたことから、活動の充実に向けてさらなる進化を目指す考えだ。5月19日には初めてのオンラインでの年次大会も予定しているという八束滋代表理事(チューリッヒ生命)に20年度の振り返りと、今後の活動計画について聞いた。

—20年度はどのような1年だったか。

八束 20年度は10月からウェブ講習会を開始した。10月はシンガポールからライブ配信を実施し、11月と12月はライブ配信に加えてアーカイブ配信も行った。コロナ禍への対応として始めたものの、集合型の講習会

では一回に多くても80人程度だった参加者が、ウェブ講習会ではライブ配信の参加者が1000人を超えるなど、プラスの効果を感じている。円滑な運営のために一定のコストは生じるが、集合型に比べて移動に時間がかからず、遠方からも参加でき、アーカイブ配信で好

引続き実施するが、それに加えて、昨年度開催できなかった年次大会のオンラインでの開催を予定している。資格試験については例年2月に行っており、20年2月の試験は実施できたものの、今年の2月は新型コロナウイルス感染症対策のため延期した。この点については、

—三つの部会とは。

八束 「テキスト部会」については、協会内でメンバーを募集したところ、12社から応募があった。この部会では、参加メンバーが初級から上級の3チームに分かれて、当協会の資格試験のベースとなっている米国アンダーライターの教育を担うALU(The Academy of Life Underwriting)が発

—年次大会の見どころは。

八束 今回は初めてのオンラインでの開催という点もあり、手探りの部分も多いが、19年度の上級試験合格者の座談会や事例研究部会の発表では、当協会ならではの、会社の垣根を超えた交流を体感していただけたと思う。また、講師にRGA(インシュアランスカンパニー)日本支店の長岡司チーフメディカルオフィサーをお招きして「新

—本年度の抱負を。

八束 まずは、走り出したばかりの3部会の活動を定着させていきたい。部会を活性化するためにも、できるだけ多様な会社のメンバーに参加してもらえようように働き掛けていく。ウェブ講習会についても、引き続き、アンダーライターに役立つテーマを選んで、提供するなど、各社のアンダーライティング業務を支援する活動を幅広く展開していきたい。

5月19日オンライン年次大会開催

行するテキスト「Life Insurance Underwriting」の最新の内容を次々回の資格試験に反映するための取り組みを推進していく。「インシュアテック部会」については、20年12月にトライアルとして有志7人が集まり「非接触対面募集」をテーマに1度ウェブ会議を行った。非常に有意義な議論が展開されたため、本年度は新たにメンバーを募り、活動を本格化させたいと考えている。事例研究部会

型コロナウイルス肺炎に伴う後遺症・予後と三大疾病への影響」をテーマに講演していただく予定だ。私は日本で約30年アンダーライティング業務に携わっているが、日本は島国ということもあり、これまでアンダーライティング業界で感染症の話題が出ることはほとんど無かった。それだけに未知の部分も多く、私自身、興味深いお話が聞けることを楽しみにしている。

—現在、アンダーライティング業界の課題と

八束 保険会社では業務プロセスのデジタルトランスフォーメーションが進んでおり、一方でデジタルヘルスの進展により、デジタル化された健康データを入手す

—事例研究部会

—事例研究部会



八束氏